

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名：一般国道491号 豊田～油谷バイパス	事業区分：補助国道	事業主体：山口県 延長：6.0km	
起終点：自：山口県豊浦郡豊田町の保 至：山口県大津郡油谷町二ノ瀬			
事業概要：一般国道491号は、山口県下関市を起点とし、山口県大津郡油谷町に至る延長約5.3kmの幹線道路である。豊田～油谷バイパスは、異常気象時通行規制が指定されている幅員狭小、線形不良の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした延長6.0kmの2車線道路である。			
H7年度事業化	都市計画決定なし	H7年度用地着手	
全体事業費	約126億円	事業進捗率：36%	
計画交通量	1,700～2,900台/日		
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.3 (残事業) 2.3	総費用：(残事業)/事業全体 71/125億円 (事業費：67/120億円) (維持管理費：4/5億円)	総便益：(残事業)/事業全体 163/167億円 (走行時間短縮便益：147/151億円) (走行費用減少便益：6/6億円) (交通事故減少便益：11/11億円)
感度分析の結果	残事業（事業全体）について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.5（1.5）（交通量+10%） B/C=2.1（1.2）（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.1（1.2）（事業費+10%） B/C=2.5（1.5）（事業費-10%）		
事業の効果等	・災害への備え（防災点検要対策箇所17箇所及び事前通行規制区間L=9.0kmの解消） ・個性ある地域の形成（主要な観光地（楊貴妃の墓・千畳敷）へのアクセス向上） 他5項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見	現状の現道幅員は狭隘で蛇行しているため、事故の危険性が非常に高いことから、油谷町から事業の継続及び1日も早い事業の完成を望んでいる。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	完成後、第一次緊急輸送道路に位置づけられることとなるなど、路線の重要性が増している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに、用地補償費のうち約97%が完了し、0.8kmを部分供用している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	終点側より、順次工事を進めており、平成20年代前半に全線供用予定である。		
施設の構造や工法の変更等	新設橋梁上部工について新技術（PCコンポ）を用い、又、歩道の設置の見直しを行うなどコスト縮減を図っている。		
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。